

九死に一生、ローマへの一步

2023年4月30日

使徒の働き 21章27～40節

序：パウロの第3次伝道旅行の最後はエルサレムに行くこと
異邦人教会からの献金を届ける ⇒ 喜んだかどうか？
エルサレム教会のヤコブと長老たちをパウロと同行者（ルカ含む）が訪問
一つの要請：ユダヤ人クリスチャンへの配慮

↓

異邦人クリスチャンへの配慮（21・25、15・20）

最小限度の守ること：偶像に供えたもの、血、絞め殺したもの、淫らな行い

パウロのモーセの律法違反の悪い噂・疑惑の払拭

聖願を立てている者4人とともに神殿で、きよめの儀式（7日間）

I. 宮での騒動

きよめの期間が終わろうとしていた

エペソから来たユダヤ人（エペソ人トロフィモを知っていた）の目に留まった
エペソでのパウロの福音宣教とその成果に危機感・警戒心・嫉妬

誤解

①ついに、パウロがエルサレムの神殿を汚すまでに及んだ

②パウロがトロフィモを宮に連れ込んだ（異邦人は厳禁）⇒死刑

③パウロが民と宮と律法に逆らう教えを広めている

反ユダヤ教思想と実践

扇動

大騒動

パウロを宮の外へ引きずり出す（聖所の門閉鎖）⇒ 暴行、殺害
エルサレム中が混乱

II. ローマ軍の千人隊長（+百人隊長+兵士たち）出動

警備していた要塞と宮の外庭は直結 ∴直ちに介入

殺害直前で、パウロは虐殺は免れる

パウロ正式に逮捕（鎖で縛り、尋問、群衆の騒ぎで要領得ず、兵営に連行を命ず）

階段でも、すきを狙って暴行を加えようとする狂乱の群衆／パウロを担ぐ兵士

「殺してしまえ」の叫び ⇔ イエス・キリストを「十字架につける」

III. 千人隊長とパウロのやりとり

何者なのか、何をしたのか

パウロの驚くべき依頼「（殺されかけたこの群衆に）話をさせてください」

あのエジプト人？（預言者を自称、3万人の信奉者をエルサレム城内入って、

ローマ軍を撃破せよ、とそそのかした）

一団（4000人）は取り抑えられたが、このエジプト人は行方不明
テロリスト

パウロの身分証明：キリキヤのタルソ出身のユダヤ人 エジプト人ではない

パウロの再度の依頼

千人隊長は許可 ①エジプト人のテロリストでないことが判明

②パウロの教養あるギリシャ語

③自分を今にも殺そうとしたユダヤ人たちに立ち向かう勇敢さ

Ⅳ. 同胞の群衆に向かって語り始める

静かにさせてから、ヘブル語で（パウロは相手によって言語を使い分けた

以後、パウロの弁明が続く

22章 ユダヤ人、敵対する同胞・群衆への弁明

23章 議会の前での弁明

24章 ローマ総督フェリクスの前での弁明

25章 " フェストウス "

26章 アグリッパ王の前での弁明

これらは、使徒9章15節の成就

あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶわたしの
選びの器です。

Ⅴ. パウロの預言と成就

(1)使徒 20・23 ただ聖霊がどの町でも私に証しして言われるのは。
鎖と苦しみが私を待っているということです。

今回の逮捕はその一例

(2)使徒 19・21 ……私はローマも見なければならぬ（於：エペソ）
" 23・11 ……勇気を出しなさい。あなたはエルサレムでわたしの
ことをあかししたように、ローマでもあかしをしな
ければならぬ。

この後、ローマ行きの道が主により備えられる

Ⅵ. 結び

パウロは自分の歩く道が前途多難であると聖霊に示されていた
彼の同労者や兄弟たちは、それを知ってそうしないように止めようとした
パウロの決心も聖徒たちの心からの心配も当然である
しかし、成っていくのは主のみこころであり、従う者を通してである
パウロのローマ行きも、驚くべき展開で実現する
私たちの場合も同じ、主の置かれた状況の中を通して実現するご計画がある